

## 地域銀行における格付付与の状況について —格付は、地域銀行にとって市場規律として機能しているか?—

矢島 格（農林中金総合研究所）

1. 預金者や株主などが、外部から銀行の経営内容を判断するためのわかりやすい指標として格付を利用していることを考えると、銀行にとって格付は市場規律として機能していることが想定できる。本稿では、2007年～2010年の各3月末時点を対象にして、地域銀行における格付付与の状況について実証的な分析を行い、格付が市場規律として機能しているか否かを確認した。
2. まず、先行研究に基づいて次の3つの検証すべき仮説を設定した。
  - 仮説①：依頼格付の付与数は、競争が厳しい環境にある地域銀行ほど多く、財務状態が良好な地域銀行ほど多い。
  - 仮説②：日系格付会社からの依頼格付の付与数よりも、非日系格付会社からの依頼格付の付与数の方が、仮説①の傾向が強く見られる。
  - 仮説③：格付水準は依頼格付よりも非依頼格付の方が低い。そして、依頼格付を付与された地域銀行は、非依頼格付を付与された地域銀行よりも財務状態が良好である。
3. 続いて、仮説①と仮説②については、各地域銀行のマイクロデータを用いて、被説明変数を依頼格付付与数とし説明変数に競争環境を表す変数と財務状態を表す変数を採用した推計を行い検証した。さらに、仮説③については、ある非日系格付会社による依頼格付と非依頼格付の付与状況を対象にした推計などを行い検証した。
4. 検証の結果、以下のような示唆が得られた。

競争が厳しい環境にあり財務状態が良好な地域銀行ほど依頼格付の付与数が多く、依頼格付は、地域銀行にとって市場規律として一定程度機能している可能性が示され、その可能性は、日系格付会社から依頼格付を付与される場合よりも非日系格付会社から依頼格付を付与する場合の方が強いことが一定の範囲で示された。

また、格付水準が依頼格付に比べて非依頼格付の方が低い傾向が確認できたが、財務状態が良好な地域銀行ほど依頼格付の付与に積極的になるという関係は確認できず、市場規律の観点から非依頼格付の存在意義について積極的な評価を与えることはできなかった。